

P 9 リンパ球免疫療法による習慣流産患者のTh1, Th2細胞の変化

○王秀霞、張淑藍（中国医科大学臨床第二院婦産科）

【目的】 夫のリンパ細胞を妻に感作させる方法によって習慣性流産の治療に有効であるとの報告がある。しかしその機序についてまだあきらかではない。それでここでは免疫療法を受けた習慣流産患者体内のTh1, Th2型サイトカインレベルの変動を研究して免疫療法の作用機序を検討してみた。

【方法】 1998年1月から2000年1月までの我が病院外来の原因不明習慣性流産患者34例を対象としてELASA法で免疫治療前後の末梢静脈血からの血清中IL-2, IFN- γ , IL-4, IL-10を測定した。

【成績】 治療前に比べて治療後のIL-2レベルは有意に低くなった（ 14.7 ± 12.5 vs 6.1 ± 8.3 ng/L $P < 0.01$ ），IFN- γ は低下の傾向を示した。一方IL-4とIL-10のレベルは顕著に高くなった（ 12.9 ± 1.1 vs 14.5 ± 1.2 , 14.1 ± 0.9 vs 16.7 ± 1.0 ng/L $p < 0.01$ ）。

【結論】 リンパ球免疫療法にて原因不明習慣性流産を治療する機序は体内Th1、Th2型サイトカインレベルのバランスを調節し免疫調節作用を発揮している可能性が示唆された。